

イザイホーと 映像の時代

連続上映 & トーク

沖繩久高島の成巫儀礼イザイホー
50年以上にわたり数々の映像作家が
情熱を注ぎカメラを回した
その作品群をはじめて一望のもと上映
映像をどのように遺し
未来に伝えるのか

東京 東中野ポレポレ坐にて
2021年7月-12月開催(全6回)
オンライン同時配信予定



主催:(株)ヴィジュアルフォークロア、エトノシネマ 共催:(株)ポレポレ東中野
協力:文化財映像研究会・(株)東京シネマ新社、(株)海燕社、民族文化映像研究所、シンプルモンク
後援:(一社)日本映像民俗学の会、(公社)全日本郷土芸能協会、ねりま沖繩映画祭 助成:公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



ヴィジュアル
フォークロア

エトノシネマ

POLE POLE
HIGASHINAKANO

SpaceCafe
ポレポレ坐

ARTS
COUNCIL
TOKYO

1978 年を最後に中断し

今や映像でしか見ることができないイザイホーの記録はどのようにして残されたのか

十二年に一度の^{うまどし}午年に行われる沖縄・久高島のイザイホー。島の女たちが神女となるための成巫式だ。神女となった女性は男の守り神となる。多くの民俗学者や歴史学者が注目し、琉球文化、ひいては日本文化において重要視されてきた。

1978 年を最後に中断したイザイホーの姿を、21 世紀に生きる者がありありと見ることができるのは、主に 1966 年と 1978 年のイザイホーを活写した映像を通してだ。

映像作家たちは、イザイホーに、久高に、何を見たのか。あの時代、なぜ、あれだけの情熱が傾けられたのか。フィルムに何が映されたのか。作家・関係者の証言を聞き「イザイホーと映像の時代」を考える。

久高島を舞台にした野村岳也、北村皆雄、岡田一男、姫田忠義、大重潤一郎、葛山喜久監督らの映像作品をはじめて一望する。

第1回 【1978 年のフィルムからみるイザイホー】

7/25
(日)

ゲスト：岡田一男監督 + 三島まき
(民俗祭祀研究者)

『沖縄久高島のイザイホー・特別短縮版』

1978 年撮影 / 2021 年改訂 / 65 分 / 岡田一男監督

1978 年に沖縄県知念村久高島で行われたイザイホーの克明な記録。今回、1979 年に制作された作品に、神謡の原音と現代語訳をテロップで加えた特別短縮版を上映。これまで以上に儀礼の意味を理解することができるようになった。2022 年に完成を目指す改訂版に向けた経過報告ともなる。



©Tokyo Cinema Co., Inc.

第2回 【1966 年イザイホーから久高漁師の記録まで】

8/22
(日)

ゲスト：北村皆雄監督

『カベールの馬～1966 年久高・イザイホー～』

1969 年 / 28 分 / 北村皆雄監督

『久高島・女が男を守る神の島』

1982-84 年撮影 / 11 分 / 北村皆雄監督

新しいセジ(灵力)を受け、男兄弟を守護するオナリ(姉妹)神、家・村の繁栄と安全を願う神女。守られる男たちの人生。1966 年のイザイホーを題材に、島の始祖神話、オナリ神信仰、御嶽、風葬など神の島の精神文化を、フィクションを交えて描く幻想紀行。



©VISUAL FOLKLORE INC.

第3回 【映画『イザイホウ』からはじめた沖縄の映像記録】

9/26
(日)

ゲスト：城間あさみ・澤岬健(海燕社)
+ 内間豊(久高島出身) + 聞き手北村皆雄監督

『イザイホウ - 神の島・久高島の祭祀 -』

1967 年 / 49 分 / 野村岳也監督

年間 30 に及ぶ神事が暮らしの中で厳粛に受け継がれている久高島。その最大の神事「イザイホウ」は、ドラマチックな構成を持ち、歌や踊りの原点を伝える。本作は 1966 年のイザイホーを通して、久高に生きる女の世界を描く。完成後 40 年間封印されていたが、神事の風化を惜しむ監督の手により公開されるようになった。



© 海燕社

第4回 【1990 年のイザイホー撮影】

10/24
(日)

ゲスト：小原信之(民族文化映像研究所)
+ 澤幡正範カメラマン

『イザイホー 1990 年 - 久高島の女たち -』

1990 年 / 30 分 / 姫田忠義監督

祭りを司る久高ヌル(ノロ)は 3 年前に亡くなり、外間ヌルも高齢に加えて病気で入院したため、1990 年はずいにイザイホーは行われなかった。この記録は、中止となったイザイホー期間中の女性たちの想いと行動を軸に、前回 1978 年の写真と音声を活用して、イザイホーがどんなものなのかを明らかにしようとした。



© 民族文化映像研究所

第5回 【比嘉康雄のみた久高島】

11/27
(土)

ゲスト：須藤義人(沖縄大学准教授)

『原郷ニライカナイへ - 比嘉康雄の魂』

2000 年 / 60 分 / 大重潤一郎監督

琉球弧の古層にわけ入り貴重な記録を残した写真家・比嘉康雄は 2000 年 5 月 13 日、末期ガンで 61 歳の生涯を閉じた。「この民族の歴史を、シマ人たちは、近代のように固定された記録として伝えるのではなく、血族の祖霊たちの存在を皮膚感覚で感じ取り、祖先との一体性を実感する中で継承してきた」と語る。比嘉はあくまで平らかで、自らの魂が原郷ニライカナイへ帰ってやがて再生するという確信を得た姿で死を迎えた。



第6回 【岡本太郎の沖縄・久高】

12/19
(日)

ゲスト：葛山喜久監督

『岡本太郎が恋した沖縄・特別版』

2013 年 / 2021 年再編集 / 葛山喜久監督

岡本太郎は 1959 年と 1966 年に沖縄を旅している。日本再発見の旅の最後に見出したのは「沖縄の中にこそ、忘れられた日本がある」ということだった。沖縄に恋をした。彼の沖縄は、今の沖縄とどうつながっているのか？それを確かめに番組は沖縄を放浪する。本作は、2013 年に放送された番組を元に、新たな映像を加えて再編集。のちに「ドキュメンタリー映画 岡本太郎の沖縄」となる原型版。



ゲストはリモート登壇になる場合があります。

【会場・各回参加費】 18:00start

■会場：space & cafe ポレポレ坐 (東京都中野区東中野 441 ポレポレ坐ビル 1F)

■会場チケット：2,500 円 (1 ドリンク付き、席数限定)

■配信チケット：2,000 円 (生配信 + アーカイブ配信予定)



↓ 詳細・参加申し込みは公式サイトから
<https://izaihofilms.wixsite.com/event>



【お問い合わせ】

(株)ヴィジュアルフォークロア

mail: info@vfo.co.jp tel: 03-3352-2291 (平日 10:00-17:00)